

1. ① a ② b ③ c ④ a ⑤ c
- 2.
3. (a) 台所道具 炊事
(b) 当時は貧しい人が裁判で不利になることが多く、何とかしたいと思ったから。
小学生の娘がいたため、弁護士になるための勉強時間が充分に取れなかった。
(c) 炊事に取りられる時間を自分のやりたいことに使っていれば、洋裁で収入を得て自立することもできた。
(d) 昔から出前の文化がある。
(e) (以前は時間のために品質を諦めたが)調理済みの食品の品質がよかった。
(f) 伝統的な選択肢に縛られず、個々の才能や得意分野を生かして役割を専門化すれば、効率よく社会に貢献できる。
(g) 料理することを選択するのも、それ以外の選択をして多様な生き方をするのも許容され、自由な選択ができるようになってほしいと考えている。
4. (a) 男子の健やかな成長を願う 端午の節句。
(b) 村の子供が誰も知らなくなる日が来ないように、学校給食の献立に加えてもらおうとしている。
(c) 新聞で人間の味覚は三歳までに決まると読んだこと。
(d) 客の健康より利益を優先するはずだと考えているため。
そうした食べ物には化学物質が使われていて、その影響を気づかないうちに受けてしまうので、人体への悪影響を心配している。
(e) 母親の料理
真心がこもっている。
母親の料理をおいしいと感じることから家族を大事にする気持ちが生まれる。
(f) 便利さに甘えて、生きるための技術である料理を身につけていない。
(g) 将来日本が危機に陥った時も乗り越えていけるように、料理を次の世代に伝えていかなくてはならない。